

21世紀ヒューマン・インターラクション・リサーチ・センター および各研究員の活動記録

1. 共同企画

1) 産業組織心理学会・東洋大学 HIRC21 共催 シンポジウム

日時：2016年7月27日

場所：横浜国際会議場

テーマ：第31回国際心理学会議 招待シンポジウム

“Job-related stress in natural disasters”

企画者：安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）

講演者：Elana Newman（米タルサ大学教授・国際トラウマティック・ストレス学会元会長）

Cait McMahon（Managing Director of the Dart Centre Asia Pacific）

堀毛裕子（東北学院大学教授・宮城県臨床心理士会前会長・HIRC21客員研究員）

高橋尚也（立正大学心理学部准教授）

2) 成均館大学（韓国）・東洋大学 HIRC21 共催 シンポジウム

日時：2016年7月29日

場所：横浜国際会議場

テーマ：第31回国際心理学会議 テーマ・セッション

“Japan-Korea Young Scholar Symposium on Adversity: Similarities, Differences, and Synthesis”

企画者：鷹阪龍太（東洋大学） 徐 正吉（成均館大学）

話題提供者：

李 夏妍（成均館大学） Consequences of Ostracism in Korea and Japan: A Comparative Study

金子 迪大（東洋大学） The Role of Active Coping and Positive Acceptance in Post-Ostracism Responses in

Japan

陸 英善（東洋大学）Differences in cultural display rules between Japan and Korea: A Literature Review and
Research Propositions

倉矢 匠（東洋大学）Adversity in the Eyes of the Beholder: Effects of Culture-Congruent vs.
Culture-Incongruent Displays of Sadness in Korea and Japan

3) 日本犯罪心理学会・東洋大学 HIRC21 共催 シンポジウム

日時：2016年9月3日

場所：東洋大学

テーマ：これから犯罪心理学を考える2「社会心理学とのクロスロード：反社会的行動と共感性」について

講演者：Emanuele Castano (New School for Social Research, Professor of Psychology)

尾崎 由佳（東洋大学）

原田 隆之（目白大学）

司会：桐生正幸（東洋大学）

4) 日本パーソナリティ心理学会・日本社会心理学会・東洋大学 HIRC21 共催 シンポジウム

日時：2016年9月15日

場所：関西大学

テーマ：「Personality and Physical Health (パーソナリティと身体的健康)」

講演者：Angelina Sutin 氏（フロリダ州立大学）

話題提供者：榎原良太氏（鹿児島大学），川本哲也氏（日本学術振興会・慶應義塾大学），

西田裕紀子氏（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター），

指定討論者：Antonio Terracciano 氏（フロリダ州立大学）

司会者：堀毛一也氏（東洋大学）

5) 翰林大学（韓国）・東洋大学 HIRC21 第6回共同セミナー

日時：2016年12月9日（金）～2016年12月12日（月）

場所：International Conference Room, Hallym University, Chuncheon Korea

企画：李柱一（翰林大学） 安藤清志（東洋大学）

6) 日本行動科学学会・東洋大学 HIRC21 共催 シンポジウム

日時：2017年2月26日

テーマ：「統合失調症の認知障害」

講演者：松井 三枝

7) 社会行動研究会&東洋大学 HIRC21 共催 研究会

【第176回】 2016年5月14日（土） 15:00 - 17:30

発表者 1：雨宮 有里（神奈川大学）

タイトル：抑うつが意図的・無意図的想起に与える影響——経験サンプリング法を用いて

発表者 2：齋藤 梓（目白大学）

タイトル：性被害者の被害後の治療選択と精神的回復、および被害時の心理

【第177回】 2016年7月2日（土） 15:30 - 17:40

発表者 1：原 朋弘（東京大学大学院）

タイトル：メディアがマイノリティーに対する社会的選好に与える影響——在日コリアンと日本人学生を

対象にした経済実験

発表者 2：會田 剛史（政策研究大学院大学）

タイトル：Social Capital as an Instrument for Common Pool Resource Management: A Case Study of Irrigation

Management in Sri Lanka

【第178回】 2016年9月5日(月) 15:00 - 16:30

発表者1: Emanuele Castano (The New School for Social Research, New York City)

タイトル: It Really is About 'Literary' Fiction: New Evidence and Underlying Mechanisms for the Literary Fiction Effect on Theory of Mind

【第179回】 2016年12月3日(土) 15:00 - 17:30

発表者1: 小塩 真司(早稲田大学文学学術院)

タイトル: ポジティブなパーソナリティ概念とその周辺

発表者2: 鷹阪 龍太(東洋大学大学院)

タイトル: 社会的排斥の影響を調整する文化的要因の検討——日韓比較を通して

【第180回】 2017年1月7日(土) 16:30 - 17:30

発表者1: 杉谷 陽子(上智大学)

タイトル: The Role of Self-based and Public-based Evaluation on Brand Attitudes: A Comparison between Japanese and American Consumers

8) 社会心理学研究会・東洋大学 HIRC21 共催 研究会

日時: 2017年2月11日

場所: LMJ 東京研修センター

発表者: 松井 豊(筑波大学人間系), 藤田 浩之(日本放送協会), 小林 麻衣子(明治大学),
高橋 幸子(東洋大学 HIRC21), 仲嶺 真(筑波大学人間総合科学研究所)

タイトル: 地下鉄サリン事件被害者・家族の心理——化学兵器テロの残酷さ

2. 論文

大坊 郁夫 (2016) 街中の歴史的な実用美 心理学ワールド, 74, 4

大坊 郁夫・小川 一美・藤原 健・朴 喜静・毛 新華 (2017). 対人場面における適切な非言語コミュニケーション研究 モチベーション研究, 6, 49-72.

堀毛 裕子・堀毛 一也・安藤 清志・大島 尚 (2016). 社会的逆境後の精神的回復・成長につながる資源 (3) ——個人的特性と精神的回復・成長—— 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 13, 3-13.

藤田 浩之・高橋 幸子・仲嶺 真・小林 麻衣子・松井 豊 (2016). 地下鉄サリン事件における被害者の身体および精神症状——事件から 20 年の変化—— 筑波大学心理学研究, 52, 77-84.

Fujiwara, K. & Daibo, I. (2016). Evaluating interpersonal synchrony: Wavelet transform toward an unstructured conversation. *Frontiers in Psychology (Methods)*, 7, Article 516, 1-9

哈 布日・高橋 幸子・三浦 絵美・松井 豊 (2016). 日本人大学生および在日留学生の防災行動の規定因の検討——在日留学生に特有な規定因に注目して—— 筑波大学心理学研究, 52, 67-76.

柏木 希宇・松田 英子 (2016). 参与観察法による知的障がい者ケアホームにおける利用者のニーズの質的分析 江戸川大学紀要, 26, 43-50.

入山 茂・池間 愛梨・桐生 正幸 (2016). 絞殺死体の司法検視における検視官の遺体情報の評価特徴——アーカイブ分析を用いた事例研究—— 犯罪心理学研究, 53 (特別号), 156-157.

入山 茂・桐生 正幸 (2016). 日本の国内線定期便のハイジャックにおける目的と凶器の特徴 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 13, 51-53.

入山 茂・桐生 正幸 (2016). 遺書の有る事例における心理学的な情報を用いた死因の推定の特徴——遺書に対する態度との関連—— 日本法科学技術学会誌, 21 (Supplement), 182.

Kato, T. (2016). Relationship between coping flexibility and the risk of depression in Indian adults. *Asian Journal of Psychiatry* (Elsevier), 24, 130-134. DOI: 10.1016/j.ajp.2016.09.008. PMID: 27931896.

Kato, T. (2016). Impact of psychological inflexibility on depressive symptoms and sleep difficulty in a Japanese sample.

SpringerPlus (Springer), **5**:712.DOI: 10.1186/s40064-016-2393-0. PMID: 27375981.

Kato, T. (2016). Effects of partner forgiveness on romantic break-ups in dating relationships: A longitudinal study. *Personality and Individual Differences* (Elsevier), **95**, 185-189. DOI: 10.1016/j.paid.2016.02.050.

Kato, T. (2016). Psychological inflexibility and depressive symptoms among Asian English speakers: A study on Indian, Philippine, and Singaporean samples. *Psychiatry Research* (Elsevier), **238**, 1-7. DOI: 10.1016/j.psychres.2016.02.007. PMID: 27086203

Kato, T. (2017). Effects of coping flexibility on cardiovascular reactivity to task difficulty. *Journal of Psychosomatic Research* (Elsevier), **95**, 1-6. Doi:10.1016/j.jpsychores.2017.02.001.

Kato, T. (2017). Effects of flexibility in coping with menstrual pain on depressive symptoms. *Pain Practice* (John Wiley & Sons), **17**, 70-77. DOI:10.1111/papr.12412. PMID: 26895743.

桐生 正幸 (2016). 犯罪心理学による悪質クレーマーの探索的研究 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, **13**, 45-50.

桐生 正幸 (2016). 殺人心理学論考 シリアルキラー展図録, 4-8.

紀藤 正樹・桐生 正幸・出口 保行・太刀掛 俊之・田中 真介 (2016). 日本応用心理学会第82回大会公開シンポジウム——住みにくい、生きにくい社会を well-being 社会にする：共生社会を築く応用心理学の実践—— 應用心理学研究, **42**(1), 65-91.

久保 ゆかり (2016). 養育者と子どもが感情経験について語ることの発達——自己概念の構築を導く—— 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, **13**, 85-90.

久保 ゆかり (2016). 幼児の感情語りの世界——何に支えられ何を支えるのか—— エモーション・スタディーズ, **2**(1), 10-15.

桑原 裕子・高橋 幸子・松井 豊 (2016). 東日本大震災の被災自治体職員の心的外傷後ストレス反応 トラウマティック・ストレス, **13**, 161-169.

松田 英子・岡田 斎 (2016). タイプA行動パターンと夢想起の関連：夢想起の内容、頻度、感覚モダリティおよび感情の分析 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, **13**, 91-97.

- 松田英子 (印刷中). 悪夢の認知行動療法：セルフモニタリング、認知再構成法およびイメージエクスポート－法の利用 イメージ心理学研究, 13.
- 松井 豊 (2016). 恋愛とカップル形成の実証研究 家族療法研究, 33, 171-177.
- 松井 豊 (2016). 被災した自治体職員のメンタルヘルスについて——惨事ストレスを中心に—— 自治体危機管理研究, 18, 69-75.
- 松井 豊 (2016). 被災者を対象とした調査・研究の留意点 心理学ワールド, 72, 7-9.
- 松井 豊 (2016). 「大震災からの心の回復」 こころの科学, 197, 104.
- 松井 豊 (2016). 消防に関わる惨事ストレス 月刊フェスク, 423, 26-31.
- Mizuno, T. (2016). Press Freedom in the *Enemy's* Language: Government Control of Japanese-Language Newspapers in Japanese American Camps during World War II, *Journalism & Mass Communication Quarterly*, 93 (1), 204-228.
- 水野 剛也 (2016). 「《メディア史料案内》 アメリカ合衆国の日本語新聞 日本国内の主要所蔵機関を中心に」 メディア史研究, 40, 120~140.
- 毛 新華・大坊 郁夫 (2016). 中国文化要素が配慮された社会的スキル・トレーニングプログラムの効果：中国人大学生の自他評価からみた意識と行動の変化を中心とする検討 社会心理学研究, 32, 21-40.
- 西野 理子 (印刷中). 三十代への移行：働くことの意味を探して、「失われた十年」を生きる 変容する社会と社会学—家族・ライフコース・地域社会 学文社
- 西野 理子・中西泰子 家族についての意識の変遷：APC 分析によるコーホート効果の検討 稲葉昭英・保田時男・田淵六郎・田中重人編 日本の家族 1999-2009：全国家族調査[NFRJ]による計量社会学 東京大学出版会, 47-67.
- 岡田 斎・松田 英子 (印刷中). 大学生の体験する悪夢の苦痛度尺度日本語版作成の試み イメージ心理学研究, 13.
- 尾崎 由佳, 後藤 崇志, 小林 麻衣, 香澤 岳 (2016) セルフコントロール尺度短縮版の邦訳 および信頼性・妥当性の検討 心理学研究, 87 (2), 144-154.
- Ozaki, Y., Goto, T., Kobayashi, M., & Hofmann, W. (2017). Counteractive control over temptations: Promoting

resistance through enhanced perception of conflict and goal value, *Self and Identity*, 16 (3), 1-21

坂田 瑞樹・松田 英子 (2016). 大学生の主張行動および対人ストレスコーピングが友人満足感に及ぼす影響

江戸川大学紀要, 26, 51-58.

鈴木 規子 (2016). フランスのポルトガル系移民の学校適応——ポルトガル系政治家の事例 白山人類学, 19, 81-103.

鈴木 規子 (2016). 移民社会フランスの市民性教育のゆくえ——テロ事件、急増する難民の後に 三田評論, 4月号, 40-46.

鈴木 規子 (2016). フランスにおける市民的統合と移民の動向——ポルトガル系移民の政治的・経済的統合に関する事例—— 三田社会学, 21, 18-29.

高橋 幸子・仲嶺 真・小林 麻衣子・藤田 浩之・松井 豊 (2016). 地下鉄サリン事件 20 年後の被害者および被害者家族の諸症状 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インターラクション・リサーチ・センター研究年報, 13, 33-44.

戸梶 亜紀彦 (印刷中). 看護職における職務動機づけの阻害要因と維持・促進要因に関する検討 現代社会研究 (東洋大学人間科学総合研究所紀要), 19, 3-12.

吉野 美緒・重村 朋子・高田 治樹・市村 美帆・稻本 絵里・川尻 泰樹・増野 智彦・松井 豊・横田 裕行 (2017). 病院前救急診療活動に従事する医師の外傷性ストレスに関する研究 トラウマティック・ストレス, 14, 63-72.

渡邊 寛・松井 豊 (2016). 新しい男性役割の側面に関する探索的検討 筑波大学心理学研究, 52, 85-96.

山本 須美子 (2017). 在欧文氏一族にみる宗族のつながりの世代的変容 東洋大学社会学部紀要, 54 (1), 21-40.

山本 須美子 (2017). 在日インド人家族の学校選択を通してみたトランスナショナリズム 東洋大学アジア文化研究所年報, 51.

3. 著書

- 堀毛 一也 (2016). 健康心理学の応用とその可能性：ポジティブ心理学 大竹恵子 (編) 保健と健康の心理学 : ポジティブヘルスの実現 (pp.214-234) ナカニシヤ出版.
- 堀毛一也・竹村和久・小川一美 (印刷中). 社会心理学：人と社会との相互作用の探求 (心理学の世界：基礎編 7) 培風館.
- 堀毛 裕子 (2016). ポジティブな特性と健康 大竹恵子 (編) 保健と健康の心理学・ポジティブヘルスの実現 (pp.235-252) ナカニシヤ出版.
- 角山 剛 (2016). 産業・組織科目 日本心理学諸学会連合心理学検定局(編) 心理学検定公式問題集 2016 年度版 実務教育出版.
- 角山 剛 (2017). モチベーション 馬場 昌雄・馬場 房子・岡村 一成 (監) 産業・組織心理学[改訂版] 白桃書房.
- 桐生 正幸 (2016). 犯罪心理学 現代図書.
- 桐生 正幸 (2016). 犯罪心理学 日本犯罪心理学会 (編) 犯罪心理学辞典 丸善出版.
- 松田 英子・東洋大学 21 世紀ヒューマン・インターラクション・リサーチ・センター (2017). 眠る——心と体を守る仕組み 日本行動科学学会 (編) (pp.1- 47) 二瓶社.
- 松井 豊 (2016). 災害で人を救う人を支えるために 安藤清志・松井豊 (編) 地域と職場で支える被災地支援——心理学にできること (pp.81- 95) 誠信書房.
- 松井 豊 (2016). 援助行動 日本学校心理学会 (編) 学校心理学ハンドブック第 2 版 (pp.92-93) 教育出版.
- 水野 剛也 (2016). 浅野七之助 日本にも影響を与えた日系人ジャーナリスト 土屋礼子 (編) 近代日本メディア人物誌 (pp. 247-248) ミネルヴァ書房.
- Emery, E., Emery, M., & Roberts, N. L. (2000). *The Press and America: An Interpretive History of the Mass Media* 9th ed., Needham Heights, MA: Allyn and Bacon. (エメリー, E.・エメリー, M.・ロバーツ, N.L. 水野 剛也・大井 真二・武市 英雄・長谷川 優子・別府 三奈子 (訳) (2016). アメリカ報道史 ジャーナリストの視点から観た米国史 松柏社).

杉山 憲司・松田 英子 (2016). パーソナリティ心理学——自己の探求と人間性の理解 2章 パーソナリティ心理学の研究法 (pp.19-46) 3章 伝統的なパーソナリティ理論 (pp.47-74) 6章 パーソナリティ心理学と隣接領域 (pp.111-138) 7章 パーソナリティ心理学と他学問とのコラボレーション (pp.139- 158) 培風館.

鈴木 規子 (2017). フランスのポルトガル系移民の学校適応 山本須美子 (編) ヨーロッパにおける移民第二世代の学校適応——スーパーダイバーシティへの教育人類学的アプローチ (pp.269-296) 明石書店.

山本須美子 (編) (2017) ヨーロッパにおける移民第二世代の学校適応——スーパーダイバーシティへの教育人類学的アプローチ 明石書店.

4. シンポジウム

安藤 清志

The 31st International Congress of Psychology, Invited symposium, “Job-related stress in natural disasters” (Organizer), PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 27, 2016).

大坊 郁夫

The 31st International Congress of Psychology, Thematic Session, “Accurate Nonverbal Communication in Interpersonal Settings” (Organizer), PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 25, 2016).

堀毛 一也

日本パーソナリティ心理学会国際交流委員会 (企画) 日本パーソナリティ心理学会第25回ワークショップ (司会) 「パーソナリティと健康」.

堀毛 裕子

The 31st International Congress of Psychology, Invited Symposium, “Job-related stress in natural disasters” (Invited

Symposium Symposiast: "The Experience of the Great East Japan Earthquake and Psychological Support - A clinical psychologist's thoughts on disaster relief") , PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 27, 2016).

角山 剛

産業・組織心理学会 組織行動部門研究会公開シンポジウム（指定討論）「ワークモチベーション理論は現場にどこまで役立つか」 2016年3月12日 筑波大学東京校舎（東京都文京区）。

東京未来大学モチベーション研究所第8回フォーラム（企画・司会） 学ぶ意欲をどう高めるか——授業方法と学習方略の視点から—— 2016年10月29日 東京未来大学（東京都足立区）。

日本応用心理学会公開シンポジウム（司会・企画） 調査法のいま——理論と技法、実践、そして展望—— 2016年11月19日 東京未来大学（東京都足立区）。

桐生 正幸

日本犯罪心理学会第54回大会シンポジウム（企画・司会）「これから犯罪心理学を考える1：犯罪心理学における社会貢献と資格問題」 2016年9月3日 東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）。

日本犯罪心理学会第54回大会シンポジウム（企画・司会）「これから犯罪心理学を考える2：社会心理学とのクロスロード・反社会的行動と共感性」 2016年9月3日 東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）。

日本犯罪心理学会第54回大会シンポジウム（企画・司会）「犯罪生物学・神経犯罪学への接近」 2016年9月4日 東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）。

松田 英子

The 31st International Congress of Psychology, Thematic Session, "Nightmare research and its clinical applications in Japan." (Speaker: "Ognitive-behavioral therapy for Japanese nightmare sufferer."), PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 29, 2016).

日本イメージ心理学会第17回大会シンポジウム 「基礎と臨床をつなぐイメージ研究」(話題提供者) 夢イメ

ージと急速眼球運動——外傷性悪夢に対するイメージエクスポージャー法, EMDR およびイメージリハーサル法 2016年11月 岩手大学(岩手県盛岡市).

松井 豊

第23回日本航空医療学会総会 パネルディスカッション基調講演 「救急活動に救援者に関わるストレスマネージメント」 2016年10月29日 埼玉県川越市.

日本自治体危機管理学会 2016年度研究大会 分科会I 「災害・被災者対応における自治体職員の課題とメンタルヘルス」 2016年10月30日 東京都.

日本心理学会「認定心理士の会」東北公開シンポジウム 「心理学を被災地に活かそう!」「被災地における外部からの心理支援臨床のあり方について」 2016年12月17日 宮城県仙台市.

谷口 尚子

International Conference on Public Administration in Korea and Japan by GSPA-SNU & CCS-ICCS, "An Analysis of Changing Post-materialism.", Keio University, Yokohama, Kanagawa, Japan (February 23, 2017).

鈴木 規子

第19回移民の参加と排除に関する日仏研究会(討論者) 2016年10月15日 駒澤大学(東京都世田谷区).

山田 一成

科学研究費補助金・基盤研究(A)「多肢選択肢における回答行動の統合的研究:質問紙・ウェブ調査法の設計と妥当性の検討」キックオフシンポジウム 「多肢選択肢における回答行動の統合的研究をめざして」 2016年5月28日 慶應大学(東京都港区).

日本応用心理学会・東京未来大学モチベーション研究所共催 公開シンポジウム 「調査法のいま——理論と技法、実践、そして展望——」 (話題提供) 「Web調査の可能性と課題——調査票設計とパネル管理——」

2016年11月19日 東京未来大学(東京都足立区).

5. 講演

大坊 郁夫

立正大学心理学部創立15周年記念公開講座 「愛を紡ぐこころ 円滑な男女関係のためのコミュニケーション」

2016年10月21日 立正大学(東京都品川区).

日本応用心理学会第83回大会特別講演 「well-beingを目指すコミュニケーション研究」 2016年9月2日 札幌市立大学(北海道札幌市).

日本音楽療法学会第16回学術大会講習会 「『ココロを中心に』対人関係を活かす」 2016年9月16日 国際交流センター(宮城県仙台市).

北星学園大学社会福祉学部福祉心理学科第19回北星心理学フォーラム記念講演 「福祉心理学科の源流をたどる」 2017年3月11日 北星学園大学(北海道札幌市)(予定).

社会性の発達と健全なパーソナリティ育成に関する国際ハイレベル・フォーラム 「豊かな社会性としてのwell-beingとコミュニケーション・スキル形成」 2017年3月18日 遼寧師範大学(中国 大連)(予定).

角山 剛

東京電機大学全学 FD/SD セミナー 「学生の学習意欲を高めるモチベーション・マネジメント」 2016年10月25日 東京電機大学(東京都足立区).

水野 剛也

「第2次世界大戦時のハワイの日本語新聞 現時点での知見と仮説」 日本クラブ(ハワイ州ホノルル)、East-West Center共催 2016年6月23日.

“Japanese Americans and their Vernacular Press in the World War II Era: An Overview and Future of my Research.” Asia

Group, Department of Sociology, University of Hawaii, Manoa (April 18, 2016).

桐生 正幸

「犯罪心理学から見た防犯活動のポイント」 2016年1月21日 神奈川県主催.

「子どもの安全を守る犯罪心理学の視点から」 2016年2月8日 兵庫県主催.

「新たな地域防犯：犯罪心理学の視点から」 2016年2月20日 兵庫県加古川市主催.

「犯罪情報分析による落書きの検討：犯罪者プロファイリングから見た PIF」 2016年2月26日 三井住友海上主催.

「犯罪心理学とクレーマー問題」 2016年5月12日 全国公平委員会関東支部主催.

「尼崎市で発生する犯罪の特性と対策－犯罪心理学の視点から－」 2016年9月25日 兵庫県尼崎市主催.

「犯罪者目線から考える防犯対策」 2016年10月13日 神奈川県相模原市主催.

「犯罪心理学から見た防犯活動：性犯罪から子どもをまもるために」 2016年10月16日 岡山県主催.

「男女関係の光と陰：あなたも知らない間にストーカーになっている！その予防と対策」 2016年10月21日 立正大学主催.

「犯罪心理学からみえてくる現代社会」 2016年10月27日 山形県歯科医師会主催.

「子どもの安全を守る犯罪心理学の視点から」 2016年11月10日 兵庫県主催.

松井 豊

運輸安全委員会研修 「惨事ストレス対策」講演 2016年6月17日 東京都千代田区.

高松市消防局組織力向上研修 「惨事ストレス対策」講演 2016年6月20日 高知県高松市.

消防職員安全衛生研修会 「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2016年7月13日 宮城県大崎市.

消防職員惨事ストレス研修会 「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2016年7月22日 富山県富山市.

地方公務員災害補償基金熊本県支部主催平成 28 年度公務災害研修会 「被災した自治体職員のストレスとそのケアについて」講演 2016 年 10 月 3 日 熊本県熊本市.

熊本県益城町心の健康セミナー 「被災した自治体職員のストレスとそのケアについて」講演 2016 年 11 月 12 日 熊本県益城町.

消防職員惨事ストレス研修会 「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2016 年 12 月 21 日 大阪府大阪市.

公益財団法人日本消防協会第 42 回消防団幹部特別研修 「惨事ストレス対策」講演 2017 年 1 月 13 日 東京都港区.

消防職員安全衛生研修会 「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2017 年 1 月 19 日 東京都港区.
消防職員惨事ストレス研修会 「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2017 年 1 月 30 日 石川県七尾市.

鈴木 規子

“Vers une société multiculturelle? Le Japon face aux enjeux des "travailleurs étrangers" [多文化社会の到来? 「外国人労働者」の課題に直面する日本] , Maison Universitaire France Japon • 日本学術振興会共催 2016 年 3 月 17 日 フランス ストラスブル.

6. 研究交流会 (研究会)

大坊 郁夫

Ken Fujiwara & Ikuo Daibo “Synchrony increases the accuracy of affective judgment in dyadic interaction” 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS) 2017 年 3 月 15 日 東北大学 (予定).

月田有香・高嶋和毅・横山ひとみ・市野順子・伊藤雄一・大坊郁夫・北村喜文 「コミュニケーショントレンジングが集団討論場面に与える影響——即興劇 (インプロ) の有無の比較を通して——」 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS) 2017 年 3 月 16 日 東北大学 (予定).

西野 理子

第7回家族社会学パネル研究会 2016年7月10日 関西大学千里山キャンパス.

第8回家族社会学パネル研究会 2016年10月22日 東洋大学白山キャンパス.

松井 豊

松井 豊・藤田 浩之・小林麻衣子・高橋幸子・仲嶺真 「地下鉄サリン事件被害者・家族の心理——化学兵器テロの残酷さ」社会心理学研究会・HIRC21 共催研究会 2017年2月11日 LMJ 東京研修センター（水道橋）

松田 英子

Matsuda, K. E. "Cognitive Behavior Therapy to Cope with Sleep Disturbance : Asian young adults have need of non-pharmacological treatment for improving sleep quality." The 6th Joint Seminar Between HIRC21(Toyo University) and HIAPR (Hallym University), Chuncheon, Korea (December 10, 2016).

7. 学会発表

阿部 光弘・染矢 瑞枝・桐生 正幸 「自動車に対する悪戯傷の検討 3——チェックシートによる加害行動の分析——」 日本応用心理学会第83回大会 2016年9月1日 札幌市立大学 桑園キャンパス (北海道札幌市).

大坊 郁夫・角山 剛 「勤労者の転職経験と仕事への影響」 日本応用心理学会第83回大会 2016年8月31日 札幌市立大学 桑園キャンパス (北海道札幌市).

大坊 郁夫・角山 剛 「勤労者の転職経験と仕事への意欲,well-being」 日本応用心理学会第83回大会 2016年9月1日 札幌市立大学 桑園キャンパス (北海道札幌市).

江利川 滋・山田 一成 「Web調査におけるSD法と最小限化回答(4)——Straight-lining規定因の再検討——」

- 日本社会心理学会第 57 回大会 2016 年 9 月 18 日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).
藤原 健・大坊 郁夫 「身体的同調と感情判断の正確さ——二者間会話における検討——」 日本感情心理学
会第 24 回大会 2016 年 6 月 18 日 筑波大学 つくばキャンパス (茨城県つくば市).
- 日向野 智子・山極 和佳・藤後 悅子・角山 剛 「保育士の対保護者コミュニケーションの検討」 日本応用
心理学会第 83 回大会 2016 年 8 月 31 日 札幌市立大学 桑園キャンパス (北海道札幌市).
- 日向野 智子・藤後 悅子・山極 和佳・角山 剛 「保育士の保護者に対する対人苦手意識がストレスに及ぼす
影響」 産業・組織心理学会第 32 回大会 2016 年 9 月 3 日 立教大学 新座キャンパス (埼玉県新座市).
Horike, K., & Horike, H. "Mental Recovery from Social Adversities: Positive Psychological Analysis." The 23rd
International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology, WINC in Nagoya, Aichi,
Japan (August 1, 2016).
- 堀毛 一也・安藤 清志・大島 尚・堀毛 裕子・高橋 幸子 「社会的逆境からの個人的・社会的回復資源 (2)
——経済的困窮からの回復・成長と主観的ウェル・ビーイングの関係——」 日本社会心理学会第 57 回大
会 2016 年 9 月 18 日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).
Kakuyama, T., Tsuzuki, Y., & Matsui, T. "Improved prediction of performance by use of interaction of optimistic and
pessimistic attribution styles among Japanese life insurance sales agents." The 31st International Congress of
Psychology, PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 26, 2016).
Kaneko, M., Mayuka M., Kutsuzawa, G., Ozaki, Y., Goto, T., & Kuraya, T. "Trait Self-Control is Negatively Related to
Emotion Variability." The 23rd International Congress of the International Association for Cross-Cultural
Psychology, WINC in Nagoya, Aichi, Japan (August 2, 2016).
川瀬 洋子・松田 英子 「頻回な夢想起と意図的な記憶想起困難を訴える青年に対するスクールカウンセリング
」 日本カウンセリング学会第 49 回大会 2016 年 8 月 27 日 山形大学 小白川キャンパス (山形県山形
市).
Kiriu, M. "A study of Japanese consumer complaint behavior: Examining the negative experiences of service
employees." The 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa,

Japan (July 27, 2016).

久保 ゆかり 「園での行事経験について語ることの発達——年少組（4歳）時点から年長組（6歳）時点までの
縦断的インタビュー—— 日本発達心理学会第27回大会 2016年4月29日 北海道大学 札幌キャンパス
(北海道札幌市).

Kubo, Y. "Young children's views of emotions in themselves: Preschoolers' telling about their own emotional
experiences." The 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa,
Japan (July 27, 2016).

沓澤 岳・尾崎 由佳・後藤 崇志・倉矢 匠・金子 迪大・湊 麻由香 「日常的な衝動抑制がセルフコントロー
ル向上に及ぼす影響の検討」 2016年9月18日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).

倉矢 匠・安藤 清志 「促進的/抑制的ジェンダー規範は婚姻特性を反映しているか」 日本社会心理学会第 57
回大会 2016年9月18日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).

Kuraya, T., & Ando, K. "The influence of system-justifying motives on endorsement of gender similarity beliefs."
The 18th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Henry B. González Convention
Center in San Antonio, Texas, U.S.A. (January 21, 2017).

桑原 裕子・高橋 幸子・松井 豊 「東日本大震災後、地方自治体のストレスケア対策に関する探索的調査」 第
15回日本トラウマティック・ストレス学会 2016年5月20日 仙台国際センター展示棟 (宮城県仙台市).

Matsuda, K. E., Liu, J., & Suzuki, H., & Kawase, Y. "Effects of psychological stress and acculturation attitudes on
sleep disturbance in Chinese students in Japan." The 1st Asian Society of Sleep Medicine (ASSM) , Taipei, Taiwan
(March 12, 2016).

松田 英子・岡田 斎 「認知症者の夢と悪夢に関する研究——施設入所者と健常高齢者の夢の頻度と内容に關
する比較——」 日本ストレスマネジメント学会第15回大会 2016年7月31日 別府大学 別府キャンパ
ス (大分県別府市).

松田 英子 「外傷性悪夢に対する短期認知行動療法——イメージエクスポート法とイメージリハーサル法
の適用——」 日本カウンセリング学会第49回大会 2016年8月27日 山形大学 小白川キャンパス (山

形県山形市).

松井 豊・桑原 裕子 「広域災害における消防職員のピアサポート研修」 第 21 回日本集団災害医学会総会・

学術集会 2016 年 2 月 28 日 山形ビッグウイング (山形県山形市).

Matsui, Y., Fujita, H., Kobayashi, M., Takahashi, S., & Nakamine, S. "The symptoms of victims of the Tokyo subway sarin attack." The 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 28, 2016).

松井 豊 「被災した自治体職員のメンタルヘルスについて——惨事ストレスを中心に」 日本自治体危機管理学会第 10 回研究大会 2016 年 10 月 29 日 明治大学 駿河台キャンパス (東京都千代田区).

尾上 成一・谷口 尚子・瀧谷 壮紀 "If You Were to Be Reborn, Which Income Distribution Would Be Desirable for You? : An Experimental Study about Effects of the Veil of Ignorance." 公共選択学会第 20 回大会 2016 年 12 月 18 日 拓殖大学 文京キャンパス (東京都文京区).

瀧谷 壮紀・谷口 尚子・クリス・ワインクラー 「『中位投票者』の変動に関する国際比較——政党公約データを用いたパネルデータ分析——」 日本選挙学会 2016 年度研究会 2016 年 5 月 15 日 日本大学 三崎町キャンパス (東京都千代田区).

須田 木綿子 「公的対人サービスの民営化と非営利——営利組織：7 年間のパネル調査の総括」 福祉社会学会第 14 回年次大会 2016 年 6 月 18 日 奈良女子大学 (奈良県奈良市).

須田 木綿子 「民営化政策とコミュニティ形成：市場原理と管理主義の視点から」 社会政策学会第 133 回大会 2016 年 10 月 16 日 同志社大学 今出川キャンパス (京都府京都市).

Takahashi, S., Ando, K., Ohshima, T., & Horike, K. "Diversity of social adversity -Severity, the ease of recuperation, and benefit-finding" The 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama in Yokohama, Kanagawa, Japan (July 25, 2016).

Takahashi, S., Rie, J., Ando, K., Ohshima, T., Horike, K. & Yuk, Y. "The experiences of social adversity : The comparison between Korean and Japanese middle and old ages (2)- Stress reaction to social adversity -" 2016 Annual Conference of the Korean Psychological Association, Gunsan Saqemangeum Convention Center in

Gunsan, Korea (August 19, 2016).

谷口 尚子 「政治学における実験研究」 公共選択学会第 20 回大会 2016 年 12 月 18 日 拓殖大学 文京キャンパス (東京都文京区).

戸梶 亜紀彦 「職場におけるレジリエンス関連要因の検討——雇用形態と性別による相違について——」 日本感情心理学会第 24 回大会 2016 年 6 月 19 日 筑波大学 つくばキャンパス (茨城県つくば市).

戸梶 亜紀彦 「職場におけるレジリエンス関連要因の検討(2) ——職種および属性の違いによるやりがいの程度について——」 日本グループ・ダイナミックス学会第 63 回大会 2016 年 10 月 10 日 九州大学 箱崎キャンパス (福岡県福岡市).

Xu, Q., & Matsuda, K. E. "Personality traits and students' sleep disturbance: Comparative study between Japanese and Chinese in Japan." The 1st Asian Society of Sleep Medicine (ASSM) , Taipei, Taiwan (March 12, 2016).

山田 一成 「質問を『目で見る』調査のバイアスの傾向——郵送調査やインターネット調査による事例と今後の課題——」 (特別セッション) 日本行動計量学会第 44 回大会 2016 年 8 月 31 日 札幌学院大学 (北海道江別市).

山田 一成・江利川 滋 「Web 調査における回答時間の規定要因——公募型 Web 調査の Likert 型心理尺度項目群に関する探索的調査研究」 日本行動計量学会第 44 回大会 2016 年 9 月 1 日 札幌学院大学 (北海道江別市).

山田 一成・江利川 滋 「Web 調査における SD 法と最小限化回答 (3) ——質問提示順序と Straight-lining——」 日本社会心理学会第 57 回大会 2016 年 9 月 18 日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).

Yuk, Y., Rie, J., Ando, K., Ohshima, T., Horike, K. & Takahashi, S. "The experiences of social adversity : The comparison between Korean and Japanese middle and old ages (1) -Types of social adversity, self-esteem, and social support- " 2016 Annual Conference of the Korean Psychological Association, Gunsan Saemangeum Convention Center in Gunsan, Korea (August 19, 2016).

陸 英善・李 柱一・安藤 清志・堀毛 一也・大島 尚・高橋 幸子 (2016). 社会的逆境からの回復に関する基礎調査 (4) 中年期～高齢期の社会的逆境経験に関する日韓比較 日本社会心理学会第 57 回大会 2016 年 9 月

17 日 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス (兵庫県西宮市).

8. その他

堀毛裕子 秋篠宮妃ご進講 「東日本大震災の経験から考えること——被災地における心理学的支援——」

2016 年 10 月 21 日 赤坂御用地内秋篠宮邸 (東京都港区).

角山剛 組織心理の応用研究 (組織・人的資源管理基礎講座) キャリアカウンセリング協会 研修講師 2017
年 2 月 11 日.

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安藤 清志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕
大島 尚（東洋大学社会学部教授）
堀毛一也（東洋大学社会学部教授）
久保 ゆかり（東洋大学社会学部教授）
戸梶 亜紀彦（東洋大学社会学部教授）
西野理子（東洋大学社会学部教授）
山本 須美子（東洋大学社会学部教授）
須田 木綿子（東洋大学社会学部教授）
桐生 正幸（東洋大学社会学部教授）
山田 一成（東洋大学社会学部教授）
水野 剛也（東洋大学社会学部教授）
松田 英子（東洋大学社会学部教授）
加藤 司（東洋大学社会学部教授）
尾崎 由佳（東洋大学社会学部准教授）
鈴木 規子（東洋大学社会学部准教授）

〔客員研究員〕

小澤 康司（立正大学教授）
西田 公昭（立正大学教授）
松井 豊（筑波大学教授）
大坊 郁夫（東京未来大学教授）
角山 剛（東京未来大学教授）
堀毛 裕子（東北学院大学教授）
福岡 欣治（川崎医療福祉大学教授）
谷口 尚子（慶應義塾大学大学院准教授）

〔研究支援者〕

高橋 幸子（東洋大学）

〔リサーチ・アシスタント〕

陸英善（東洋大学大学院社会学研究科）
倉矢 匠（東洋大学大学院社会学研究科）
金子 迪大（東洋大学大学院社会学研究科）
鷹阪 龍太（東洋大学大学院社会学研究科）